



中絶を手伝った者のジレンマ

「私は自分のしていることが間違っていたことだと気づきました」
 ジョーン・アップルトンは私に言いました。「それは発達した技術のおかげです。私が超音波機を使用している中絶の手伝いをしていたときに見たものに、私は傷つきました。そして、私は今までずっとしてきたことが、完全に間違っていたということが分かりました。」

彼女が見たものは、医者がカヌラという、端がプラスチックで出来た中絶のために用いられる吸い上げ装置を胎児に近づけた時、その18週目の胎児が、まるで悲鳴を上げるかのように口を開ける姿でした。彼女は、カヌラが赤ちゃんの肢をまず引き裂いた後、残りの身体を全て吸い出すとした時に、赤ちゃんが虚しく自分のいのちのために闘つところを見たのです。

「その姿を見た後、私は本当に気分が悪くなり、幻滅を感じました。私は既に商売でしている中絶に頭を悩ませており、その赤ちゃんの姿を見ることは、自分自身で扱えないものではないものでした。同僚たちにも自分たちのやっていることを信じる必要があるとアドバイスし続けていた私は、ここを去らなければいけないと気づきました。」

彼女が職場を去るのは簡単なことではありませんでした。突然、彼女は「敵」の一部になってしまい、彼女の元友人や元同僚は彼女のことをそのような目で見るようになりました。さらに、彼女は直に中絶後の精神的外傷の手ひどさに直面しました。

彼女は私に説明してくれました。「中絶に関わると、次の三つのうちのどれかが起こります。第一は自分が関わっていることの恐ろしさに気づき、そこから抜け出します。第二は恐ろしさに気づきませんが、変わり目が怖く勇気がないため、そこから抜け出せません。第三は恐ろしさに気づきませんが、そこから抜け出す勇気がなく、その恐怖を積極的に防御しようとしません。」

彼女は一瞬沈黙し、それぞれの考え方についてさらに詳しく説明しました。

「最初のシナリオでは、まずそこから抜け出す時、普通地理的な変化があります。それが私に起こったことでした。私はある街で中絶診療所の担当をしていました。私がそこを去った時、全ての友達を失い、彼女たちには私が女性を裏切ったと思

われ、実際彼女たちに憎まれました。他の街にいる別の友人が、私に来るように誘ってくれました。私はそうして、それ以来ずっとここにいます。

二つ目のケースのあなたが恐怖に気づきながら抜け出すのが怖い時、あなたの生活の中で非常に不快な変わり目が来るのです。例えば、憂うつと不幸が支配し始め、アルコールを飲む量が増えるようになり、個人的な人間関係でも悩むようになります。

そして最後のそしておそらく最悪のシナリオは、恐怖を守り始める時、「選択」があなたの神になるということ。これは、紛れもなく、人間性が奪われることの縮図なのです。」

ジョーンは人間性が奪われるこ

とについて良く知っています。「理解しなければいけません。赤ちゃんを中絶するためには、中絶を手伝う者はその赤ちゃんの人間性を奪わなければならないのです。そして、女性にこの残忍な暴行である中絶を受けさせることは、彼女の人間性も奪うことになります。結局、この人間性を奪う過程を通るとき、あなた自身の人間性も奪わなければならないのです。一度これが起こると中絶を手伝った者は治療が必要になり、その治療によつて【再び人間らしくなる】過程を得ることができるようになります。」

ジョーンは何百人もの治療と回復を必要としている中絶を手伝った者の一人です。彼女らの多くは、罪と恥を感じながら生きています。多くの人はどこへも行くところがない、精神的苦境に陥っています。ジョーンは運が良かったのです、なぜなら彼女は自分を助けてくれる人を捜すことができたのですから。

中絶を手伝い、
 苦しみの中で、
 光を見つけようとしている人に
 祈りを！

「私が中絶の仕事を辞めた時、かなりひどい状態でした」と、ジョーンは言いました。「私はアルコールへ逃げて、罪と恥とに浸りきっていました。幸いなことにネイ医師の話を目にし、彼の助けを得ることができました。」

ジョーンはフィリップ・

(1ページから)

ネイという精神科医のことを指していました。ネイ医師は中絶後の精神的外傷に関する広範な調査をし、初めて中絶を手伝った者に助けを与える必要があることに気づいた人でした。ジョーンは彼の所に行き、彼女がとても必要としていた安らぎを探すことができました。

ところで、そもそも何がジョーンを中絶の仕事に従事させたのでしょうか。

「私がこの仕事を始めた時、私の関心事、私の唯一の関心事は女性のためということでした。私は、女性が母親であるという負担無くして自分のなりたいたいものになる手伝いをするのですが、自分の義務だと思っていました。私は女性が男性と子どもたちの世話役以上のものになるべきだと感じていました。結局、私が実際にやっていたことは本当は女性を傷つけることであり、女性であることの本質を破壊する手伝いをしていただけでした。私はやっと、女性が破壊者ではなく養育者であるべきことに気づきました。」

ジョーン・アップルトンは神の祝福を受けました。彼女は中絶の残忍な実体を認め、そのもつれた触系から逃れました。ジョーンと似たような他の人々のためにこそ、私たちは祈らなければならぬのです。彼女たちも中絶戦争の被害者なのです。私たちの心、涙、エネルギーそして祈りを中絶によって破壊された母親と赤ちゃんに届ける時、私たちは又、心の中に中絶を手伝って、後悔している者を哀れむための空間を設けなければいけません。彼女たちがしたことを知っているため、それは難しいことです。私たちが中絶をなくすため祈りと闘いを続けていく中で、今まで考えたこともなかったことですが、ジョーンや他の中絶を手伝い、苦しんでいる者のことを覚えていなければいけないのです。

(フロイト・アレン)

男性優位の国・韓国

リー・ヨン・サンが二度目の妊娠をしたとき、彼女はこっそりと病院へ行き、医師に胎児の性別を聞いた。医師に女の子だと言われ、その後彼女は悲惨な気持ちのまま家族旅行に出かけた。彼女は夫との間にすでに女の子が一人いる。二人はさんざん悩んで話し合った結果、ある結論に達した。そして、リー夫人は病院へ行き、中絶手術を受けた。

「夫にそれを促したのは私で、あのときはとにかく中絶しなければと感じていました。」と35歳のリー夫人は語る。「夫は息子は必要ではない、と言います。でも私が、息子がいたらいいわよね?と聞くと彼は黙ってしまいます。つまり、彼の答えはイエスなのです。」

夫人は、伝統が求めるものと、韓国社会における女性の地位向上の狭間で苦しんでいる。リー夫人のように女の子を産む女性が増えている一方で、男の子を産まなければいけない、という古くからの義務感にさいなまれていく女性もまだ多い。だから彼女たちは、女の子とわかった瞬間に胎児を中絶し、再び男の子に挑戦する。

女性が
男子を産むことを
未だに
望まれている国がある。

韓国では、まったく中絶が行われなかった頃と比べて、年に三万人も女子の誕生が減少している。一年に生まれる女の子は33万人であるから、12人に一人の割合で、性別を理由に中絶されている計算になる。中国、インドなどの他の国でも、妊婦が女子の胎児を中絶している現状が報告されており、それぞれの社会で女性不足が起きている。四千万五百万の人口を抱える韓国では、女子百人に対して百十六人の男子が生まれている。これは世界で最も高い比率とされる。唯一これに近い数字をはじき出しているのが中国で、中国政府が一九九二年に行った全国規模の調査によると、百人の女子に対して百十八・五人の男子という比率になっている。この数字に驚いた北京の高官たちは、二度とこの調査結果を公式には発表しなくなるといわれている。

他の国々では、百人の女子に対して百五人が百六人の男子とというのが平均である。男子の方が女子よりも早く死ぬ傾向があるので、成長する頃には1対1の割合になっている。しかし、韓国のいくつかの地域では、男子の数が百二十五人という所さえある。数少ない例外を除いて、中絶は韓国では違法行為とみなされる。また、胎児の性別を明らかにすることも法に反することとされている。しかし、それを取り締まるのは至難の業で、医師は賄賂と引き替えに胎児の性別を教えることが頻繁にあるとされている。韓国では、男の子を産むように、義理の母親を初め、女性たち自身から圧力をかけられているようだ。後継ぎとなる息子を産めないと、夫を裏切ったことになると感じる女性もいるようである。リー・テェ・リムが29歳で女の子を産んだとき、家族は全員とても喜んでくれていたように見えた。ところが、しばらくたってすぐに義理の母親が、男の子ではなかったことを小言でつぶやくようになった。それからリー夫人は再び妊娠し、今度は男の

(3ページへ)

子を出産した。「義理の母は、自分の娘に三回も電話をして、今度には男の子よ!と報告してました。」と、今は家で二人の子どもの育児に専念しているリー夫人は驚いて言う。「息子を産んですぐ、義理の両親は私たちを広めのアパートに移らせました。この息子のためにもっと広い部屋が必要だと思ったようです。」

一九九四年から女子の胎児を中絶することは犯罪行為とされるようになったが、それでも中絶は普通のこととされている。政府は密かに中絶を行っている医師の摘発に努めており、十月には胎児の性別を患者に教えたかどで数人の医師を逮捕した。

このことは、妊娠中の母親たちに余計なプレッシャーをかけるようになった。中には計り知れない不安に駆られている人もいる。「女性はとても不安がっています。特に長男の長男と結婚した女性は、男の子を産まない」と離婚されるのではないかと恐れているのです。」と、韓国的家族関係支援センターを経営するクオク・バエ・ヒー氏は言う。「男の子がいないと、女の子はいずれ結婚して出ていってしまつ」と家族は、父親が亡くなる」と一族がその時点で滅亡すると考えてしまつのです。」

28歳の妊婦、パク・ウン・ヒーは、ソウル病院で診断の順番を待つ間、プレッシャーで押しつぶされそうだった。「お医者さんは教えてくれないけれど、どうか男の子でありますように。」パク夫人にはすでに二人の女の子がいて、夫の家族からは今度こそは、といった期待が日々高まっていた。「面と向かつては言いませんが、彼らはみんな男の子が欲しいのです。」「彼らは私の歩き方で男か女かわかる、と言ってみたり、私の体つきについていろいろと言います。」と彼女は肩を落として言う。「それらを聞いてみると、また女の子のような気がするのです。」パク夫人は、もし今回も女の子だったら、もう一人子どもを作ろうとすでに決心しているのだった。

アンバランスな男女数 将来は?

「この国はまったく男性優位の国です。」とソウル国立大学で人口統計学を教えるリー・シー・バイク氏は言う。「我々は女性を見下しているのです。この考えは儒教の教えから来ています。ですから、古くから伝わるこの儒教の教えの一部を捨て去らないことには、女性の地位を築くこともできないのです。」

韓国の女性のほとんどは職業を持たず、専門知識を生かした職に就く機会ほとんど限られている。

リー氏の統計によると、一九七〇年代には韓国女性の27%が、息子を産めなかった場合夫が内縁の妻をもつことを認めていたという。今ではそんなことはなく、内縁の妻というも昔の話となった。

一九九〇年には政府が遺産相続において男女の差を法的に撤廃し、また企業が「男性のみ」といった求人広告を出すことも禁止した。それでも、いまだに男性に対するひいきは、特に結婚生活において残っている。近代化しつつあるとはいえ、韓国の男性は伝統的に自分の妻を核家族に迎え入れ、一方で娘たちは嫁に行くため家を出るといふ風習は変わっておらず、韓国の古くからの言い伝えによると、婿養子とは決いて家族の一員になることはできない、とさえ言われて

いる。

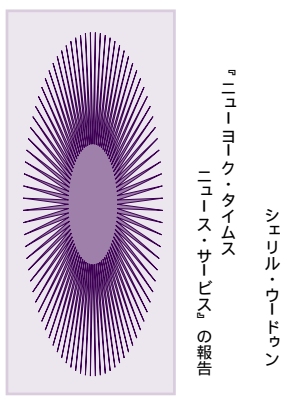
「我が国は女性不足に陥ることになる。」と韓国健康・福祉協会長で、人口学者のチョー・ナム・ホーン氏は言う。「いずれ海外から輸入しなければならぬ自体になるだろう。」

すでに小学校では女子生徒の不足が見られる。セゴミョン小学校に通う7歳のリー・ヨン・ハリの一年生共学クラスには、彼女の13人の女友達は23人の男子生徒と過ごしている。「男の子たち、好きじゃない。」とヨン・ハリーは回りを男子生徒たちに囲まれて少し恥ずかしそうに話してくれた。「だって、いつもけんかしてるんだもん。」だが、男子生徒たちも女の子が足りなくなっていることを実感しているようだ。伝統的な秋の祭りであるフオークダンスでは、女子生徒が足りないため、何人かの男子生徒は男同士で踊ることになった。

中絶をおこなったリーさんは、その五年後に再び女の子を出産した。すると彼女がまだ退院もしないうちから義理の父親がやってきて、あとのくらいで再び子どもが作れるのかと聞いた。ある日彼は、男の子の作り方が載っている新聞記事を彼女に渡した。リーさんはそれを素直に受け取り、財布の中にしまい、再び子どもを作ることはなかつ

た。「義理の母親は以前は何も言わない人だったので、最近になって、まだ間に合うんだから、早く次の子どもを産みなさい、と行ってきます。」とリーさんは話してくれた。「義理の父親は息子には何のプレッシャーもかけないのですが、法事などの親戚の集まりでは、必ず先祖に息子に男の子が産まれますようにとお祈りしているのです。」

リーさんは、今いる二人の娘を愛していて、息子はいらぬ、と思っている。それでもときどき迷ってしまうことがあるそうだ。二人の娘と一緒にバスや地下鉄に乗ると、哀れみの表情をした年輩の女性が近寄って来て、「息子さんはいないの?と聞いてくるのです。ええ、と答えると、さらに、あら男の子は産まないのだめよ、と言つのです。そんなことを言われると、私は一瞬躊躇してしまうのです。息子を産んでいない私は、悪いことをしているのだらうか、と。このようなことを言われると、本当に腹がたちますし、困惑させられます。」



いのちと魂まだこの世に

「この人は死んでいる。」と、私が担当している患者の脳波計と頭蓋骨のエックス線写真を見て、

神経外科医は驚いて言いました。私たちはテキサス州、サンアントニオのテキサス大学健康科学病院の集中治療室で、エックス線写真を投影する装置のそばに立っていました。私と同じ職業

については、その言葉は、「患者自身にとって社会的のためにも、その患者は安楽死させられる（殺される）べき。」ということの意味を知って、私はぞっとしました。

「いいえ、彼は生きています。人口呼吸器なしで呼吸していますし、脈拍もしっかりしています。」と私は言って、生きている証拠を示している計測データを見せました。

「それじゃあ、植物人間だ。単なる植物人間だ。」と、彼は挫折感の漂う声で言いました。彼は眉をひそめ、それからエックス線写真から目をそらし、机の上のカルテを私の方に押しやりました。

「今、何をすればいいでしょうか。」と私は、その状況に同じよ

うな挫折感を味わいながら尋ねました。

「彼を家に送り返すんだね。彼をここから出してやるんだ。誰も何もしてあげられない。生きていくのが不思議なくらいだ。」その医者は背を向けて去っていき

ました。ほんの四週間前、私の患者のジョン・ジャクソンはよく働く牧場主で、72歳という年齢にもかかわらず、馬に乗り、ヒマラヤ杉の木を切り、囲いを修理し、牛を追っていました。

ジョンの病気は、頭痛から始まり、弱音を吐きたくはないんだが、これは普通の頭痛じゃないんだ、先生。」と彼は集会のときにホームドクターに言いました。

「ジョン、明日私の病院に来たまえ。検査してみよう。」と地元

の医者は言いました。テキサスの丘陵地帯の頑健な開拓者の中で医者をやってきたので、この医者は、具合が悪いとか痛いとか言ったときには、この我慢強く自立心の強い人々は、すでにかなり苦しんでいて、多くの「民間療法」を試していることを知っていました。

診察して医者はジャクソン氏に、「君の言う通りだよ、ジョン。これはふつつの頭痛じゃない。

サンアントニオへ行って、病院で専門医に見てもらわなければならないよ。」と言いました。大学病院で、神経外科医は脳腫瘍だと診断を下し、緊急手術の日程を決めました。麻酔医が彼を手術室へ運んでいく直前に、

ジョンは妻のヘレンの手を取って、「この結果がどうなるかわからない。このことで息子のジョーが家族のもとに帰ってくるように神様に祈ってくれ。たとえ私に何が起ころうとも。」と言いました。

これがヘレンが耳にする彼の最後の言葉になりました。48年間の結婚生活の間に、彼らの子どもであった二人の娘と一人の息子は、大人になっていました。

彼らは子どもたちを立派に育てましたが、息子は大学に行つて、家族から離れ、浮き世暮しをするようになりまし。ジョンとヘレンはジョーの「生き方」を嘆

きました。手術は成功しました。腫瘍は取り除かれました。しかし術後の出血と浮腫の合併症によって、

ジョンは「脳死」の状態になったのです。

彼は、全く反応を示さない状態のままでした。彼の鼓動と脈拍をつかさどっている脳幹は順調に機能しつづけていましたが、

前頭葉はもはや彼が周囲のものに反応することを可能にしていませんでした。彼は自分がしてほしいことを口に出していてもできないければ、自分の思い（実際何かの思いがあると思えば、そのことを疑問視している人がいますが）を伝えることもでき

ませんでした。ヘレンは彼を、快適な昔から住んでいる牧場の家へ連れて帰りました。彼女の家族や友人や地元の医者が、彼の居場所を作る手助けをしました。彼らは病院のベッドや特別なシーツや流動食を提供しました。ヘレンは看護に熟練するようになりまし

た。娘たちも隣人も教会のメンバーも交替で「手を貸し」てくれました。テキサスの田舎の人里離れた牧場には、介護サービスもホスピスもありませんでした。

ヘレンは私に、「私は彼を誰も知らない街の特別養護老人ホームへ入れたくはありません。彼

も望まないでしょう。彼はこの牧場のこの家で生きて、そして死にたいと思つてしよう。」と言いました。

一年以上彼は、目は虚ろでも見えず、脳死状態で、いかなる刺激にも反応せず、不自由な脚が徐々に萎縮し、脳が働いていない植物状態でそこに横たわっていました。

ホームドクターと私と彼の看護婦とが定期的に彼を訪問しました。私たちはいつも通りの介護をし、情報を提供し、ヘレンの心のケアをしました。

神様は私たちに人間全体（精神も肉体も）のケアをすることを教えて下さいました。私が書いたケアプランには、精神、心意志、感情、肉体に対する目標が含まれていましたし、またそれには他の人々とのふれあいの機会も含まれていました。

私はジョンのためのケアプラン作るうとしました。もちろん肉体的なニーズや目標や手順は明確で、たくさんあって、利用しやすく説明しやすいものでした。彼の栄養上のニーズは満足させるのが困難でした。彼は無力なベットに横たわつたままの患者と関連のある肉体的な問題を全てかかえていました。しかし、彼の心理的、精神的ニーズについ

(4ページから)

ではどうでしょうか。なんらかのニーズがあったのでしょうか。

ベットで寝たきりの多くの患者のために、私は、音楽や社会的なふれあいや、感情表現のための時間や機会や、他の人からの訪問といったプランを作りました。精神的なニーズに対しては、神父や牧師の訪問やミサや礼拝や聖書朗読や、患者自身と信仰を同じくする人々との交流ができるように手配をしました。

しかしジョンには何をすればいいのでしょうか。なにか役に立つことがあったでしょうか。「神様、一体どうしてジョンをあのようなままにしておかれるのですか。どうして彼を死なせてくださらないのですか。彼は自分自身にとっても、他の誰にとっても何の役にもたたないの



たとえ
死んでしまったかのように
見えていても…

です。」と私は祈りました。

彼のところを訪ねるたびに、私はヘレンのことが心配になりました。彼女はジョンのケアと

牧場の経営のために長時間一生懸命働いていました。彼らの息子のジョーは、牧場の経理面の手伝いをするために家に帰ってきていました。ジョーが帰ってきてくれただけでヘレンはやる気がでました。

彼は母親の家事を手伝い、牛の飼育をし、無力な父親を持ち上げたり体の向きを変えたり、母親をからかったり冗談を言ったりして家族を顧みるようになってきました。

「お母さん、いろんな点で、家にまた戻ってよかったよ。」と彼は言いました。彼は母親のきやしやな体を抱き締めて、持ち上げました。

ジョーは有能な介護士になりました。彼は父親の介護の手順について私に尋ねました。ヘレンは手術の前にジョンが言った最後の言葉を覚えていて、息子が家族と神様のもとに帰ってきてくれたことで心が慰められたと言いました。

ジョンとヘレンを定期的に訪問していたある日、私はジョンの体調や生命反応や皮膚や筋肉の緊張状態をチェックしました。それから少しヘレンと雑談をしました。私はそれ以上何もでき

なくて悲しく思いました。「帰る前に一緒にお祈りをしましょうか。」と私は尋ねました。

「ええ、そうしましょう。手を握りましょう。私は彼のために祈りをするとき、いつも彼の手を握るんですよ。」

私は高い位置になっている病院のベットの一方に立ちました。ヘレンは反対側に立ちました。私たちはベットの上下に手を延ばして、ジョンの手とお互いの手を握りました。

私は祈りました。私は自分がこのように言うのが耳に聞こえませんでした。「神様、私たちはあなたが全ての主であり、私たちが愛しておられることを知っています。ジョンの体はこれ以上うまく機能しませんし、彼の心もほとんど無くなりつつあります。でも彼の魂はまだここにあります。あなたはこの地上でのいのちに重要なことが起きつつあることを私たちにお示しになりました。」

私が、「この地上でのいのちに重要なことが起きつつある」と言ったとき、ジョンが私の手を握り、目を開け、ヘレンと私を見て、微笑んでうなずいたのです。魂が体から飛び出ていきそうでした。信じられない！私はヘレンを見ました。彼女はジョンを抱き締め、私たちはお互いに抱き合いました。私たちは笑い

ました。私たちは再び泣き、笑いしました。その瞬間、私たち三人の間には深い永遠の絆が生まれました。私たちの現在の生活と状況における神の力を、私は深く理解するようになりました。その日、私は魂も心も変わって部屋をあとにしました。

後に、ジョンがああ言葉に反応したことを神経外科医に話したとき、彼は「君の想像だろう。あの人が何かに反応するなんて医学的には絶対ありえないよ。」と言いました。

ジョンとヘレンと神様と私だけが、精神の世界でたくさん重要なことが起きたこと、そしてヘレンと私のためにジョンがそのことをはっきりさせることを神様がお許しになったことを知っています。私たちがそれを疑うことは二度とないでしょう。「神様と一緒にあれば、不可能なことは何もないのです。」

私は二度と人間を植物とは呼ばないつもりです。私は今、肉眼では見えない顕微鏡世界や、目に見えない化学や電気の世界や、原子よりも小さい粒子の世界や、DNAや、分子の活動があるのと全く同じように、魂という見えない世界があることがわかりました。肉体的、精神的機能が壊れたり、停止することがあっても、重要なことがまだ魂の世界では起こっているのです。安

楽死、いわゆる「慈悲による殺し」は、慈悲のないもので、魂のことを何も知らない者がそれを支持しているのです。「生活の質」は、魂の世界における生活と機能が確認されなければ適切な評価ができません。

ジョンの魂はもはや肉体というこの世の無用の姿に執着していません。彼は神様のもとに帰り、彼の肉体は土に帰ったのです。しかし彼は重要な魂の問題と取り組み、息子を家に呼び戻し、私にいのちの大原則を教えるだけの間、この世にとどまったのでした。

マリエラ・ボイス



看護は

治療と看護はまるで車の車輪のよう。いいえ、もう治療の手段なく、死に行く人にとっては、治療はその力を無くしても、看護は最後までその力を無くさない。看護は治療を越えた所にあるのです。

高槻 渡辺厚美さん

現在、高槻母親を守る会代表・元看護婦。

資 料 紹 介

404 ビデオ

厚生省・
(社)日本助産婦会推薦

『いのち - おくりもの』

生命尊重ビデオ III

(日本語 25分 ¥13000+送料)

このビデオには二組の御家族が登場しています。今月と来月でその二組の御家族を中心にこのビデオの紹介をしたいと思います。

先ず最初、越智先生は中学校の国語の先生。ある日、松山の51番霊場・石手寺を御夫婦で訪ねています。その境内には、『子授け石』があります。夫は、自分に一番似ている石を手に取りました。これから、越智先生は毎日きれいな水でこの石を洗います。

その石を頂いて帰った越智先生は、
『みほとけの

優しき恵みに包まれて
子授け石をいただく喜び』

とうたいました。

妊娠数が進んだある日、今は高校生になったかつての教え子が母校に集い、越智先生と対話していません。先生は新しいいのちを授かった心境を若者に伝えたいと呼びかけたのです。

そして、5ヶ月になった越智さんはむなかた助産院(賀久はつ院長)を訪れ、口を開いたり、こっぴんこしたりする、超音波映像に映るわが子を眺めています。

『宇宙飛行士

向井さんのようよと仰せられ、
気持ちよく動く吾子をながむる』

そして、5月目の犬の日に巻く腹帯をして、起き上がる越智さんに賀久院長は先ずは横を向いて起きる

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬：ピル

注文：	1 - - - - - 5	1部 = ¥100
	6 - - - - - 20	1部 = ¥75
フルカラー	21 - - - 999	1部 = ¥50
	1000 - - 以上	1部 = ¥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

と赤ちゃんが楽なことを教えたり、赤ちゃんに出会うまでは、待って、待って、また待って、やっと出会える！その忍耐がお母さんになるために大切なことがわかる。

やがて、無事女兒を出産した越智先生の御家族は、お礼参りに二つの石を持って、石手寺を訪ねます。

『お礼こめ

新しい石添え置きぬ

子宝求むる方に幸あれと』

来月号は家族でお産を見守った村井美貴さん一家のことです。

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 無料 + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死 + 郵送料
 [202] 第二の処女生 + 郵送料
 [203] デート + 郵送料
 [204] どうするの? + 郵送料
 [205] "NO"という技術 + 郵送料
 [206] テイーンの出産コントロール + 郵送料
 [207] バージンの瀬戸際 + 郵送料
 [208] していましたか + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」 + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」 30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン 200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス 500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード 30枚=100円 + 郵送料
 [306] ミニソフィア Ace エース(税別) 7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び ... (VHS/Beta) 7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド (VHS/Beta) 7000 + 郵送料
 [404] いのちーおくりもの (VHS) 13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの = one&only (VHS) 20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる? 天使の鼓動 (VHS) 6000 + 郵送料
 [410] ビル先進国・英国からの警告 ... (VHS) ... 15000 + 郵送料
 [411] (ユース・セミナー) エイズ時代の性倫理 ... (VHS) ... 3800 + 郵送料
 [500] (本) 生命問題に関する ... (カトリックの教え) ... 2987 + 郵送料
 [501] (本) 自然な家族計画 ... (ビリングス・メソッド) ... 1000 + 郵送料
 [503] (本) プロ・ライフの旅 300 + 郵送料
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ 1200 + 郵送料
 [505] (本) いのちをみつめて 500 + 郵送料
 [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ) 660 + 郵送料
 [507] (本) 私の生命を奪わないで 2300 + 郵送料
 [508] (本) いのちの福音 1500 + 郵送料
 [509] (本) 小さき生命のために 1300 + 郵送料
 [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月 ... 12ページ ... 100 + 郵送料
 [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて 300 + 郵送料
 [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント 500 + 郵送料
 [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう 300 + 郵送料
 [515] (本) 経口避妊薬：ピル 100 + 郵送料
 [516] (本) いのちの福音と教育 1470 + 郵送料
 [517] (本) フマネ・ヴィテ 300 + 郵送料

(本) フマネ・ヴィテ

1 - - - 30	1部 = 250円
31 - - - 100	1部 = 200円
101 - - 以上	1部 = 150円

パンフレット申し込み

1 - - - 5	1部 = 35円
6 - - - 100	1部 = 25円
101 - - 500	1部 = 20円
501 - - 以上	1部 = 15円

は
組
み
合
わ
せ
自
由
で
す

十代の性 (20)

質問：通学途中のバスで何度も会っている女の子と友達になりたいのですが、話しかける勇気がありません。どうやってアプローチすべきでしょうか？

デートを重ね、親しくなったら？



答え：彼女を見かけるたび、好感のもてる笑顔で接しさえすれば、言葉は必要ないでしょう。そのうち彼女も笑い返してくれるようになり、自然に

シヤム双生児と中絶の決断

ナタリー・コックスが自分が妊娠したと知ったとき、喜びに震えました。そして、後に超音波が赤ちゃんが双子であることを示すと、彼女は意気揚々としました。しかし、その一時間後、双子がシヤム双生児であることを知らされたとき、彼女は大きな衝撃を受けました。

挨拶や自己紹介ができることでしょう。会うたびに挨拶をしているうちにお互いの距離が縮まり、だんだん自信も出てきて、いざれデートにも誘えるでしょう。女の子としては、あまり親しくない相手からの誘いを受けるのにためらいがあると思うので、グループデートにして、週末、友達と舞台を見に行くんだけど、君も友達を連れて一緒にどう？という風に言った方が、オスしてもらいやすいでしょう。お互いの友達同伴のグループデートの方が明るくのびのびと楽しめるでしょう。

夫チャールズにこの話をしたとき、最も幸せな日々だったはずが一変して、この悲しみの意味を理解しようと、二人はただただ抱き合っただけ泣きました。その後の日々、新しく深い悲しみに対処するための彼らの奮闘は、まわりの全ての人々を感動させた。彼らの結婚生活を強固なものにし、得ることが出来ると思っていた以上の喜びを彼らに与えたのです。

彼らにはもうじき2才になる一人の娘があり、今度は彼らの人生にとって二つ目の祝福の時間となるはずでした。しかし、彼らが初めて写真を、結合された双子の超音波写真を見たとき、「私はただ泣きました。知るということはたった一つの側面であり、実際にそのものを見ることはまた別のことでした。そして、それが最もつらかった。」とナタリーは言いました。

たら、いずれの赤ちゃんも生存できないかもしれないと思われていました。

たとえ双子が無事産まれても、例えば心臓のように一つの生命維持に必要な器官を共有しているかもしれないということでした。その場合、両親は双子のどちらかを選ばなければならぬ局面に向かうことになるのです。

また、おそらく帝王切開が必要で、彼女は二度と出産できないかもしれないという可能性もありました。そして、こうしたことと全てのために、友達は助けになるうとして、今回は中絶をし、もう一度妊娠を試みよう彼女たちにアドバイスをしました。

夫チャールズは言いました。「私は前に他の夫婦がするように中絶を絶対にしなないと決めていました。ところが、今度は本当に中絶をするか否かに直面させられました。」しかし、この状況の衝撃が薄れてくると、赤ちゃんへの愛情の方が大きくなり、中絶はもう既に論点ではなくなっていました。

赤ちゃんが成長するにしたいが、超音波写真は多くのことを教えてくれました。次第に、赤ちゃんたちが一つの肝臓を共有

していることが分かりました。今までに肝臓を分割して生存した例はあるのでしょうか？はい、ありました。

ナタリーは自分を待ち受けている帝王切開についてはあまり心配していませんでした。実際、彼女は全身麻酔で眠ってしまったのではなく、見ていたいと思いましたが、彼女も夫も一人とも、どちらか片方の赤ちゃんしか生存できない、或いは両方の赤ちゃんとも生存できないかもしれないと知っていたながらも、赤ちゃんに関して心はとても平穏でした。

医者と看護婦のチームは一丸となつて彼女たちの手助けをし、全てはうまく進みました。二人の健康な小さな女の子が泣きながら誕生しました。彼女たちの肺は充分発達して健康でした。彼女たちはつながっています。たか？はい、彼女たちはお互いの方を向き合いながら横たわっていました。彼女たちの腹部がつながっていたのです。しかし、二人とも手の指も足の指も、いずれも綺麗な形をしていました。事実、彼女たちはとても可愛かったのです。そして、母親もまた元気でした。しばらくの間は、赤ちゃんも元気でした。しかし、切断手術はこれからでした。

日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062 高知市新本町一丁目7-3 1

電話 / Fax 088-873-3619 e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

For English Speaking People / evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforyoma.or.jp

事務所時間：

月一金 10:00 - 17:00
土曜日 休み
日曜日 休み

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千円 一千円

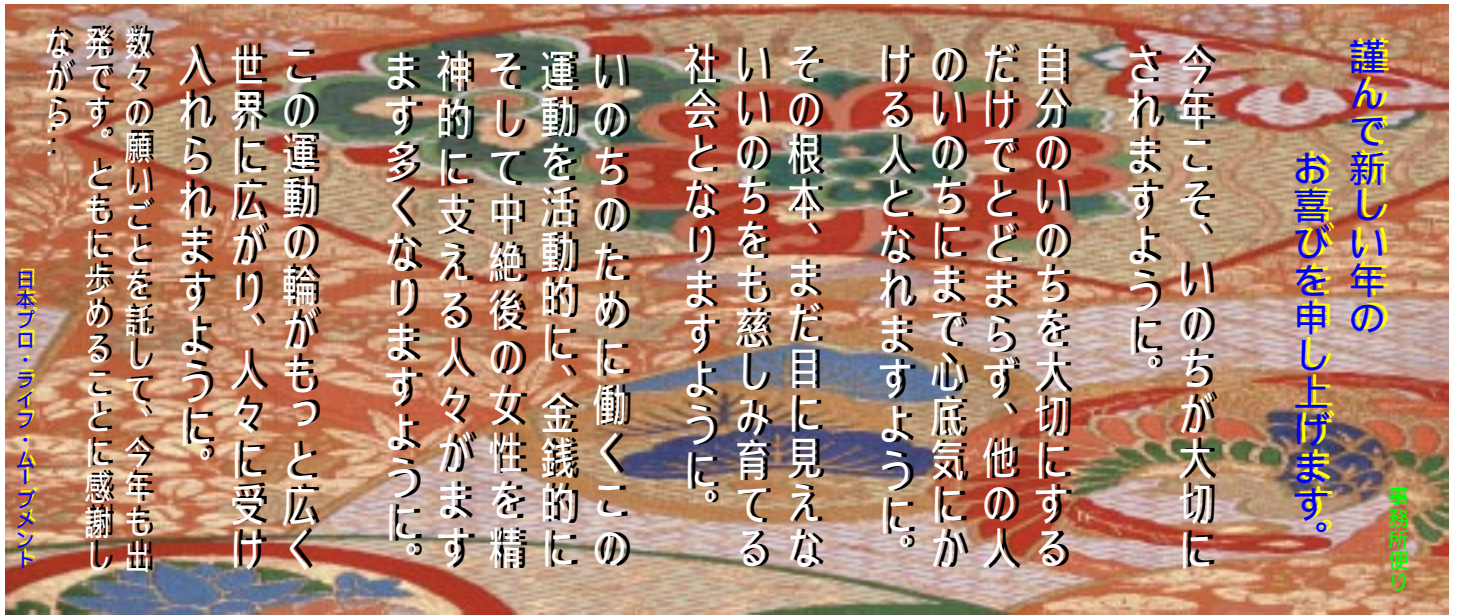
無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

御送金

銀行：四国銀行朝倉支店
口座番号：0573553
日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局：「郵便振替」
現在口座番号：01660-5-39607
日本プロ・ライフ・ムーブメント



謹んで新しい年の
お喜びを申し上げます。

事務所使用

今年こそ、いのちが大切に
されますように。

自分のいのちを大切にする
だけでとどまらず、他の人
のいのちにまで心底気にか
ける人となれますように。

その根本、まだ目に見えな
いいのちをも慈しみ育てる
社会となりますように。

いのちのために働くこの
運動を活動的に、金銭的に
そして中絶後の女性を精
神的に支える人々がます
ます多くなりますように。

この運動の輪がもっとと広く
世界に広がり、人々に受け
入れられますように。

数々の願いごとを託して、今年も出
発です。ともに歩めることに感謝し
ながら...

日本プロ・ライフ・ムーブメント

(7ページから)

医者と両親は話し合い、医療チームは彼女たちの小さな身体に切断手術を始めました。

まず最初に、医者たちは赤ちゃんが一つの胆嚢を共有していることを発見しました。これは慎重に切り離されました。3分の1と管は小さなキャロルに、残りの3分の1はお姉さんのノエルに、そして残りは捨てられました。これまでのところは順調です。

そして、次は肝臓です。それも共有されていまして、執行医は臍臓も一つしかないことを発見しました。これら生命維持に必要な器官を切断するのは、危険で細かい注意が必要で、時間のかかるものでしたが、手術は成功しました。最後に、小さな女の子二人は離され、両方の小さな腹部を覆い被すだけの皮膚と筋肉が充分にありました。

彼女たちは別々のベビーベッドに寝かされましたが、二人とも気むずかしくなっていました。そこで看護婦が二人を再び一緒にしたところ、お互いに触り合い、一緒に遊びました。彼女たちはそれで満足したようでしたが、時々ごく普通の小さな姉妹がするようになら、お互いを蹴り合ったり、うるさがり合いました。

小さな問題は続きましたが、それぞれ順番に対処されていきました。集中治療室と保育児室の看護婦は、惜しまず彼女たちの世話をしてくれました。そして赤ちゃんたちが産まれてから1週間たったところで、彼女たちの2才

の姉、レベッカが会いに来ました。一つだけ一年以内に快復させなければならぬ問題があります。それは短腸症候群といえます。これは、口にした食べ物の消化が早すぎることを意味しています。適切な栄養分を与えるために、両親は頻りに食べ物を与えなければなりません。このことが、彼女たちの立派な母親、ナタリーに「頻繁」という言葉の全く新しい意味を教えたと言います。

コックス家はこうした経験の中で、友達や家族に囲まれ支えられ続けて、双子の姉妹は今ここにあり、皆が幸せに過ごしているのです。

ジョン・C・ウィルキー 医学博士

『沈黙の叫び』を見て
ビデオの中で、実際にどうやって中絶を行なうのを見て、すごくショックを受けました。

胎児は母親のお腹の中で、手や足を動かしたり、心臓が動いていたり確実に人間の姿が、目に見えて分かりました。授業で「胎児は人間である。」と習ったことが良く分かりました。その胎児を殺すことは、外に出てきていないけれども、一つの命を奪っているんだなあと思いました。

胎児はもちろん生きる権利を持っているけれども、その母親も生きる権利を持っています。だから、もし母親が子どもかどちらか一方しか助からないという場合は、どうなるのかなあと思いました。こういう問題もあるので、完全に中絶を否定しきれない部分というものもあるのではないかと思います。だからといって、子どもが多すぎる自分の生活が苦しくなるといふ理由を通らないと思います。

S・H・W・「高知生」